

「京都文化芸術プログラム2020(仮称)」(案)に係る市民意見・御意見への対応

○御意見者数:138名, 御意見数:207件

A:プログラム案に反映するもの

B:プログラム案に記載済又は趣旨に含まれ、賛同いただいているもの

C:プログラム運用時に参考とするもの

No.	御意見	対応
プログラムの方針		
1	プログラムを進めることにより、2020年の未来像(すがた)がイメージできるようなものにしてもらいたい。	A
2	2020年になった時、全体としてどう変わるのか、魅力が増すのかがよく分からない点が残念だ。統一された目標やビジョン、イメージみたいなものがあればもっとよい。	A
3	プログラムのイメージを伝えるために、「2020年に目指す姿」という表現があった方がよいと思う。	A
4	このプログラムを進めることで、2020年に京都がどんな「文化芸術によるまち」に生まれ変わったのかが説明できればよいのではないかな。	A
5	3つの方針はシンプルかつ整理されている。	B
6	京都に古来から伝わる歴史を分かりやすく紹介するなど、京都を訪れた人がワクワクするような魅力的な事業を進めてほしい。	B
7	「守る」等の保守的な部分と「活かす」等の積極的な部分をどう上手く組み合わせて進めていくかが大事である。	B
8	京都を訪れる人には、日本人の心、その根本にあるものに触れて、京都の文化に感動してほしい。	B
9	京都を訪れる観光客が増えた一方で、マナーの悪さも目にする。東京オリンピックに向けて、日本の文化を発信していくことは、日本への理解を深めてもらえる良い機会だと思うが、更に多くの外国人が京都を訪れることになり、マナー向上のPRも徹底しなければならない。	C
10	(方針3)京都の魅力発信は良い考えであり、賛同する。京都の文化芸術を世界に広めることで、国内外の学生や世界中の芸術家が京都に惹きつけられて、ますます多くの人が京都に集うまちになることは素晴らしいことだ。	B
プログラムを牽引する重要事業(11事業)		
重要事業①学校教育をはじめ、あらゆる機会を通じた伝統的な文化芸術に触れる取組		
11	伝統芸能は、難しく近寄りがたいものなので、身近で本当の良さを体験できる機会を増やして欲しい。 ・子ども達への体験授業(土曜日の活動の一環) ・市内での茶道体験(どこでもお茶席) ・学校で京都について学ぶ時間を設ける(時間割に「京都時間」を作る)。	B
12	京都が誇る文化芸術を子どものうちから体験できる取組をもっと増やして欲しい。将来、その子どもたちが大人になった時にファンとなり、今ある京都の文化芸術が支えられていくことが期待できる。親子体験の機会も取り入れ、若い世代の親も一緒に巻き込んで欲しい。	B
13	子どもが伝統芸能の良さをを感じるには、受け身で参加するのではなく、体験型のイベントとして実施することが大切。オーケストラでは、参加した子ども向けに楽器に触れる取組をしている。	B
14	伝統産業品が抱える課題として、普段生活の中で使われないためにその良さが伝わらないという側面がある。そうした中で本物に触れる機会、知る機会を小学校等で必ず設けるなど教育の過程に組み込んではどうだろうか。	B
15	日本文化を本当に理解してもらうために、舞踏を体験するなどの体験学習プログラムを用意することが有効だ。	B
16	子どもへの文化芸術体験は情操教育にとっても非常に大切。このプログラムを契機に一層進めて欲しい。また、2020年で終わるのではなく、それ以降も続けて欲しい。	B
17	伝統芸能、伝統文化の底上げをするような取組をしてほしい。	B
18	学校教育で茶道・華道を体験させてほしい。	B
19	学校教育と一体となった芸術・文化の取組を充実させることや親子で参加できる催しなど、もっと市民に寄り添った取組を増やしてほしい。	B

20	日本の伝統文化は子どもだけではなく、大人も学ばなければならない。親子と一緒に学べるような機会をもっと拡充するべき。	B
21	日本文化に触れ、体験することは大切であり、その体験は早くから繰り返し行うことが重要。小学校の教育でその取組ができるようなシステムを考えてほしい。	B
22	伝統芸能等を子どもの時代に分からないながらも触れたという経験が、将来の鑑賞への敷居を下げ、自発的な鑑賞へとつながる先行投資となる。子どもは、感受性が豊かで先入観が少ない分、自由な解釈がしやすく、定期的に鑑賞機会を設け、何度も何度も見てもらうことで伝わると思う。	B
23	学校教育や家庭教育、地域の中で身近に感じ触れる機会を増やす取組が必要。	B
24	伝統芸能や伝統文化のみならず、現代芸術についても子どもの頃から何度も触れて体験することが必要。	C
25	京都の奥深い文化を体感してもらうには、体験型の企画に繰り返し参加してもらうことが有効。京都の暮らしに根付いている文化は、継続した文化体験をすることによって気付くものも多い。継続して体験してもらってこそ、文化が体得できるので、繰り返し、体験できる機会を設けることが大切だ。	B
重要事業②日本の文化芸術を牽引し、世界の人々を魅了する創造環境の整備		
26	京都市立芸術大学の移転は、文化都市として、京都が大きく飛躍する転機になると確信している。国立博物館、京都劇場、美術工芸学校等と一体となって一大文化芸術ゾーンを形成してもらいたい。	B
27	ロームシアター京都や京都市美術館の再整備、京都市立芸術大学の移転整備などの実現は、どれも将来の京都にとって大事なことだ。	B
28	ハードの整備と同時に、ソフトの整備も必要。日本の美術館等では、一流の作品展等を開催しても、それを観客や市民に分かりやすく伝えたり、平素から市民や子ども向けの普及啓発や教育プログラムが大変脆弱。学芸員の重要な役割として、そのような普及啓発に取り組む人材の確保や施設の整備をする必要がある。	C
29	昨今では、美術館等の運営について収益性や収支を重要視するあまり、特別展の観覧料金が1,500円程度まで上昇している。このことは、鑑賞できる人を経済状態や興味関心の強さで選別することになっており、より多くの市民が観覧できるような取組が必要ではないか。	C
30	演劇の練習に使うホールを安い値段で借りられれば助かる。	C
重要事業③国立京都伝統芸能文化センター(仮称)の創設とそれに向けた先駆的取組の実施		
31	京都の文化力を支える人材が急速に少なくなっていると感じる。職人さんをはじめとした人材が2020年までもつか不安だ。人材育成を今からしっかりと進めていってもらいたい。	B
32	伝統文化・伝統芸能の公演は、興味のない人でも参加できるような料金設定が大切。敷居を下げることで、体験してもらい、お客さんを増やし、ファンの裾野を広げる取組をしてほしい。	B
33	伝統文化・伝統芸能の衰退が危惧されているが、大切なのは若手育成に力を入れることにより、将来のスターをつくることだと感じる。そのスターに惹きつけられ新たなファンが生まれ、ひいては将来にわたりその分野の芸能が継承されることにもつながる。	B
重要事業④「地域に根差した暮らしの文化」を通じたまちづくりの推進		
34	「地域に居住し、地域で制作し、まちづくりに参加しながら、国際的にも活躍する京都型『グローバル・アーティスト』の育成・支援の取組」が必要ではないか。	A
35	芸術家の力を借りて、京都の各地域が持つ特色をアートの視点でまちづくりに活かすことが出来れば、京都ならではの取組になると思う。	A
36	アートの力を活かし、地元地域との協働によるまちづくりが必要ではないか。	A
37	都市化の流れで町家が減少し、高齢化による地域の担い手の減少により地域固有の祭りが継承できなくなり、京都ならではの暮らしの文化は失われつつある。町家の保存継承の仕組みを整えたり、新進芸術家による町家の改修で若者の居住を促進し、高齢化地域に若手芸術家が居住する仕掛けを進めていく必要がある。	A
38	「地域に根差した暮らしの文化」について、他都市から移り住んできた方や、若い方達をよくわからない部分もあるかと思う。このプログラムを機会に、観光マップに載るようなステレオタイプではない新たな京都の魅力が、京都の内外で知られることを期待している。	C

重要事業⑤「伝統文化体験の日(仮称)」の実施など若者を対象とした伝統的な文化芸術に触れる機会の創出		
39	若者も伝統文化に対して興味はあると思うので、皆で参加できるような仕組みづくりを考えてもらいたい。	B
40	伝統芸能のファンは若者が少ない。もっと若者に興味を持ってもらえるような取組が必要。	B
41	若者を取り込んでいくためには、伝統文化を体験すること自体を訴えても難しいので、着物でまち歩きや舞台鑑賞をするといった企画を通じて、若者に魅力的な企画(やってみたいけど機会が無い非日常的体験)で訴えかけていくような取組が必要ではないか。	C
42	「伝統文化体験の日」について、伝統文化に興味のない若者に触れてもらうには、若者たちが見る機会のある、テレビに出るような自分たちと同じ年代の伝統芸能の世界の若手ホープを呼ぶとか、若者に興味のある分野とのコラボをしてもらったり、料金を安くして、参加しやすくすることも最初は必要であろう。	C
重要事業⑥京都市指定・登録文化財の公開に向けた大規模な改修を推進するなど「未来へつなぐ歴史的建造物等計画的修理事業」の実施		
43	市指定・登録文化財の一般公開に向けた修理補助については、実現すればまだ訪れたことのない隠れた名所を訪ねることができるので、期待している。	B
44	文化財を守り伝えていく必要性を市民に感じてもらうためには、実物を見て感じて知ってもらうための公開が欠かせない。文化財を補修し継承する過程や、補修後の公開する機会の創出が必要だ。	B
45	京都には、国宝・重要文化財が多いが非公開の部分や場所も多いので、できる限り活用し”ほんもの”の良さを肌で感じられるとよりよいと思うので、そのような公開の機会を増やして欲しい。	B
重要事業⑧文化・観光に関する情報の一元的把握及び入場券等を販売するWEBシステムの構築		
46	外国人が京都に何を求めているのか、そのレベル(習熟)に応じた対応を検討する必要がある。	C
47	一目で何の展覧会をしているか分かるように、市内全ての美術館や博物館の展示内容が分かるような案内やHPをつくってほしい。	B
48	一目で寺などの拝観時間が分かるようなパンフレットやHPをつくってほしい。	B
49	ネットからの情報に大きく依存しているので、文化と観光の情報をうまく見れるようにし、チケットをWEB上で買えるようにしてもらいたい。	B
50	京都は幅広く多くの文化芸術がある分、何を見ていいのかが観光客には分かりづらい。京都に来訪し、滞在する中で選んでいただける、多くの情報の中から適切に編集された選択肢を提供する取組が必要。	B
51	京都で行われるイベントが、いつ、何があるのかを明確化し、海外からの観光客にも使いやすいよう、情報整備に取り組むことが必要。	B
重要事業⑨「東京オリンピック・パラリンピック」等を契機とした国際的な祭典の開催		
52	工芸の分野において、販売は観光が支援しているが、作家の支援は不十分ではないだろうか。世界工芸展覧会を開くなど作家を支援するための取組も必要だ。	A
53	ロンドンオリンピックの際は、ストーンヘンジの遺跡を活用してパフォーマンスが行われた。日本で文化プログラムを進めていくうえで、日本人が考える文化財の価値を伝えていくことが大切。文化財だけでなく、工芸品の価値を伝えることも、日本ならではの価値があるので、ぜひやっていくべき。	A
54	京都は工芸が盛んで、クオリティの高いものが集積するまちである。工芸展覧会の開催など工芸分野の販路開拓につながる取組により、クリエイティブな都市を目指してはどうか。	A
55	「海外キュレーターらを招聘したカンファレンスの開催」が必要ではないか。	A
56	芸術家だけではなく、国内外のキュレーター等が京都で一堂に会する場を設けることも必要ではないか。	A
57	京都から文化芸術を国際的に発信するためには、海外で活躍する著名な芸術の専門家等を招へいし、京都の文化や芸術家を様々な場で紹介してもらうことが効果的だ。	A
58	伝統芸能・伝統文化だけではなく、京都から京都市交響楽団に代表される音楽を世界に向けて発信していったらどうか。	B
59	1964年の東京オリンピックにも文化プログラムがあった。その際に、東京で国宝展が開催され、1日鑑賞していて、感動した。2020年のオリンピックの際にも、文化芸術の様々な事業が展開され、かつて国宝展を見て感動したことが再来することを楽しみにしている。	B
60	京都国際現代芸術祭が開催されるが、2020年にも大規模な現代芸術祭を実施してほしい。	B
61	世界を代表する文化都市になるためには、伝統文化だけではなく他ジャンルの分野と融合し、相乗効果を生み出していかなければならない。	B

62	京都が持つ様々な文化資源(文化財や京料理など)を動員して、まとまった形で発信できないか。	B
63	ヨーロッパの日本文化フェスティバル(ジャパンエキスポ)のような漫画・アニメを発信する取組を京都でもしてもらいたい。	B
64	京都には美術館・博物館が多くあり、各施設が連携・協力して開催するオリンピックに向けた企画展を進めてほしい。	B
65	伝統という素地があるうえに、新しいものを創れるのは、京都の強みである。東京にも勝る京都の利点であり、もっとPRしたらよい。	B
66	一般的に京都の外から見たイメージは修学旅行のような歴史都市としてのものが大多数だと思うが、それだけではない音楽や現代アートまで幅広い芸術があることをこの機会に発信できればよいのではないか。	B
67	オリンピックの時には、関西でもスポーツが盛り上がり、文化でも国際的な祭典を開催するのなら、若い世代が盛り上がるものをやってほしい。	B
68	世界中のコスプレイヤーが集まる催しをやってほしい。	B
69	京都には他都市にはない伝統芸能や音楽などの優れた文化芸術がたくさんあるので、それらを存分に国内外に広めてもらいたい。	B
70	お茶、生け花の文化も京都ならではの文化だと思うので、この2020年を機会に和の文化を一層普及するような取組にってもらいたい。	B
71	京都は伝統文化と言う固定概念がある。京都国際現代芸術祭PARASOPHIAを契機に、現代芸術への関心や触れていただく機会の創出への取組も必要ではないか。	B
72	私たちは、箏を主とした和楽器と古典音楽の作曲様式を取り入れた和風ロック、そして着物を取り入れた衣装、伝統芸能に基づいたパフォーマンスによる活動を行っており、寺社仏閣や各イベント会場、クールジャパンを国内から世界に発信出来る場所でのパフォーマンスに力を発揮出来るので、御検討をお願いしたい。	C
重要事業⑩市民、NPO、企業、大学等との連携や支援による様々な文化芸術活動の展開		
73	「京都市立芸術大学と東山 アーティスト・プレイメント・サービスが連携し、アーティスト・学生・市民が参加する文化イベントの開催」が必要ではないか。	A
74	芸術系団体や芸術系大学等との一層の連携により2020年に向けた文化活動を活性化し、京都のまち全体で文化芸術の取組が盛り上がるようになればよい。	A
75	京都は大学のまち。芸術系の学生をはじめ学生が多数いるので、行政だけではなく彼等と連携した取組を進めて盛り上げてもらいたい。	B
76	2020年に向けての取組を進める中でどれだけ学生を巻き込めるかが大事。各大学の持つ良さが発揮できるような連携が必要。	B
77	若者の視点で提案を募り、優秀な提案は採用するなど学生の参加を促進してはどうか。	B
78	京都には芸術系大学が多数あるので、行政と大学が連携して京都ならではの芸術を発信してもらいたい。	B
79	各大学にある文化系のサークル(能楽部)など、学生とも連携したイベントをすれば広範囲に文化芸術を発信していけるのではないか。	B
重要事業⑪アーティスト・イン・レジデンスの強化など世界のアーティストが集まる文化芸術のハブを目指した環境整備		
80	アーティスト・イン・レジデンスは内容が難しいため、市民にも分かりやすい一般的な表現を心掛けた方がよい。	A
81	アーティストインレジデンスは文化芸術の基盤とも言えるもの。京都芸術センターから日本全体に広げてもらいたい。	B
82	日本の温泉をアーティストインレジデンスにしたらどうか。アーティストも楽しく創作活動ができるし、アーティストが著名な芸術家に育った際には、その温泉地域も名所となる。	C
83	アーティスト・イン・レジデンスは単に作家の作品を鑑賞するだけではなく、作家本人と交流したり、作品の制作過程に関わったりなど、双方向性の美術鑑賞となり、より深い芸術体験につながる。京都、ひいては日本の文化に影響を受けた芸術家や作品が世界に出ていくことは、京都の国際的な価値を大きく高めることであり、より一層の取組を期待する。	B
84	アーティスト・イン・レジデンスは海外の芸術家と交流できたり、京都に影響を受けた作品を鑑賞できるとも良い機会だと思うので、どの期間にどの場所で実施しているのか、もっと周知に努め、一般の方々にも興味を持ってもらえるようにすべき。	C

七つの視点と事業例		
(1)育てる「日本の文化芸術の継承と創造を担う若者等の育成」		
85	京都の文化芸術が発展していくためには、芸術家だけではなく、文化芸術に関わるコーディネーターの育成が大切である。	B
86	1964年の東京オリンピック、1970年の大阪万博までは、経済が成長し、日本が育った部分があるが、それ以降、資源や人が育っていない。オリンピックの後に世代交代や人材育成ができるようなシステムづくりが必要。	B
87	2020年までの6年間で、人や地域を育てることが大きな課題である。	B
88	京都に限った話ではないが、2020年には国内で更に高齢化が進んでいる。絵画教室や着付け教室の講師、展覧会でのボランティアなどシルバー人材を活用した取組を期待したい。リタイア層の活用、活躍の場を整えてほしい。	C
89	伝統芸能について目の肥えた鑑賞者を増やすためには、良いイベントをすることが大前提だが、数をこなすことが必要。一度やっただけでは忘れてしまうので、繰り返し体験させなければいけない。	B
90	日本の子どもだけでなく、外国人の子どもに向けて伝統文化の体験学習をさせるのがよいのではない。	C
91	文化プログラムを成功させるためには、文化芸術をマネジメントできる人材が重要となってくる。今からそういった人材育成を一層進めていかなければならない。	B
92	あらゆる分野の文化芸術、それと連携する寺社や劇場、伝統工芸などそれらを組み合わせて新しいイベントを実施するには、優秀なディレクターが必要である。	C
93	和食にもっと親しむために、学校の給食で和食をもっと取り入れてはどうか。	B
94	アーティストとプロダクション業者をつなぐ人材育成が必要。プロデュース型で人材育成をする「事起こし屋(ことおこしや)」という職業が生まれたらよい。	B
(2)果たす「全国の伝統的な文化芸術等継承のための中心的役割を果たす」		
95	京都ができること、グローバル化の中で、日本のよきものを探すことをしてほしい。京都は、生活文化、立ち居振る舞いそのものが、そのまま文化であるまち。	B
96	オリンピックを機会に、京都が誇る世界的な文化遺産を世界へと発信し、未来に引き継がれるよう守っていくことが使命だ。	B
97	日本の伝統文化、伝統芸能のルーツは京都にあるものが多く、世界遺産も多数ある。経済状況が厳しい中でも、これからも日本の文化の中心地としての役割を果たしてほしい。	B
(3)知る「市民による京都の暮らしの文化の再発見」		
98	お茶、お華、和食など、日本を代表する文化が京都には集積しており、京都が文化でおもてなししていくことを打ち出してほしい。	B
99	京都には、年中行事や地域での文化の取組がたくさんある。そして、広く知られていないものもある。地域での取組、京都ですでに行われている祭り、イベント等を掘り起こして、光をあてるだけでも、京都のまちが輝きはじめる。京都の地域の文化を大切にしてほしい。	B
100	京都の子どもは身近すぎて金閣寺などに行っていないことが多い。小中学校で金閣寺や清水寺などへの社会科見学を義務化するのはいかがでしょうか。	C
101	プロフェッショナルな芸術家や文化の担い手を育てることも大事だが、大方の市民の文化度の底上げこそが大事だと思う。京都が他の都市とは違う歴史の重みを今の、またこれからの市民が実感し、洗練された文化を基にした暮らし方をされていてこそ、京都の都市としての魅力も増すと思う。	B
102	暮らしの中に息付く文化の再発見は大切だと思うので、子どもの頃から地元の風習や文化財に触れる機会の創出を増やしてほしい。	B
103	京都観光文化検定試験(京都検定)の受験を奨励することで、京都市民自らが京都の知識を深めるとともに、京都検定合格者の積極的な活用してもらいたい。	C
(4)守る「歴史的文化遺産が蓄積された都市・京都の継承・発展」		
104	公共施設(公衆トイレ、バス停、ベンチ、ガードレール、舗道、地下鉄の駅、橋など)のまち全体のデザインを、京都らしい美的センスが感じられるものにすることが、文化芸術都市として一流であるためには必要である。	B
105	他都市にはない京都のまちとしての魅力の一つが寺社仏閣や建物規制などの街並みにある。将来にわたってこの街並みが守られていくように応援している。	B
106	無電柱化の推進や歩道拡幅など景観の整備も併せて進めていくべきだ。	B

107	京都にある様々な歴史的な文化遺産を国内外に発信し、京都の魅力を更に広めてほしい。	B
108	市民と行政が一体となって景観を守るために取り組んでいかなければならない。京都を訪れた人には京都の街並みの素晴らしさにも触れてもらいたい。	B
109	京都のように本物の文化財がたくさんある所では、オリジナルの文化財をしっかりと守ることが大事で、それさえきちんとできていれば、文化の資源化の動きは出てくるだろう。本物の文化財を守るのは民間だけでは難しいので、役所が力を入れるべきだと思う。	B
110	祇園祭後祭巡行が49年ぶりに復興し、大船鉾も150年ぶりに復帰した。地域に根付く行事は、京都らしいものであり、なくてはならないものだと感じている。未来永劫継承できるよう支援なり仕組みを作してほしい。	B
111	文化財は、所有者が守るものであって、市民や国民が守るものであるという意識が低いと思うので、意識を高める啓発が必要ではないか。	B
(5)活かす「京都の豊富な文化芸術資産の活用と創造」		
112	文化芸術の担い手を育てるために、プロとして生計が立てられるような仕組みづくりや支援など、文化芸術活動が経済活動に結び付く取組を期待する。	B
113	伝統芸能だけではなく、京料理も一緒に楽しんでもらえるような企画を考えてはどうか。	B
114	マンガ、アニメと連携してコスプレした姿で茶会をするなど縦割り行政ではない文化芸術と産業がコラボレーションした企画はできないか。	B
115	経済の活性化を考えたときに、文化芸術で都市に魅力を創出し、まちに活気を与えることが有効で、経済的な良い循環が生まれると考える。オリンピックに向けて、京都に新たな魅力が生まれるように、取り組んでほしい。	B
116	2020年に向けて、文化に携わる新たな職業を生み出し、それを文化芸術プログラムのレガシー（遺産）としていくことが必要である。2020年のオリンピックに向けて、新しい職業が出てくることを期待したい。今現在、その職業に従事している人がいないような職業が生まれてくることを目指すべき。	B
117	個人や法人で持つ文化資源を行政が仲介することにより、有効に活用していくべき。	B
118	京都のまち全体でおもてなしできるよう、お店などでも展示するような身近な取組も大切。	B
119	外国人が楽しめるような和食でおもてなしをすることが大切だ。	B
120	視点(5)活かすに「融合」とあるが、具体例ではまだ個々の文化が際立ってしまっている。最新の芸術やコンテンツ産業の愛好者が伝統文化、産業、文化財に触れる機会は少なく、また逆もしかりである。アニメ・マンガの中に伝統文化を登場させたり、登場させた和食や着物を実際に作ることで相互の行き来が活発になり、裾野を広げ得るのではないか。	C
(6)広める「日本の文化芸術を、京都が中心となって国内外に発信」		
121	外国人も展覧会をより一層楽しめるように、英語表記を充実させてほしい。	B
122	外国の方が日本の文化としてイメージに最初に浮かぶのは、伝統文化である。京都には、日本文化のコンテンツが集積しており、オリンピックに向けて、日本ならではの文化を発信するには、京都の文化力がいかに発信できるかが重要となってくる。	B
123	2020年のオリンピックは東京で開催されるので、京都の文化芸術を見てもらうために京都に人が集うには、観光とも連携した海外への発信が必要だ。	B
124	展示解説など日本語を外国語に翻訳する際には、翻訳者がその文化を真に理解している必要がある。読む人にとって誤解のないような表現を心掛けてもらいたい。	B
125	京都に移住して日本の伝統文化を広める外国人の方もいる。海外に向けて発信をするには、そういった方達にも意見を求めながら、外国人の観点で考えて進めていくことが有効ではないか。	C
126	海外に向けて文化芸術を発信する際に重要なのは、海外情報拠点をいかに充実させるかだ。情報拠点のスタッフが実際に京都の文化芸術に触れ、感動し、その素晴らしさを伝えることで京都に行ってみたい、という気持ちが相手にも伝わる。またそれが口コミとなって拡散していく。発信する際の戦略をしっかりと組み立ててもらいたい。	B
127	効果的に京都の文化芸術を発信するため、テレビなどのメディアを使って広報していく必要がある。	B
128	早いうちから市民に関心を持ってもらい、国内外に情報発信するためPRの戦略は早く着手した方がよい。	B
129	情報発信には、テレビだけでなく新聞やインターネットなどのメディアも有効に活用していくべき。	B
130	はじめて京都に来た方々が、いろいろな場所を効率よく見てまわれるように情報インフラを整える必要がある。	B

131	オリンピックを機会に、多言語化を進め京都から世界に文化を発信することが大切。	B
132	世界から京都を見たときに、京都からどういうものをアピールするべきか検討する必要がある。	B
133	2020年のオリンピック開催時の京都ができる取組として、オリンピックが始まる前までに、京都を紹介するDVDを作ってはどうか。	C
134	京都に合わせた企画を取り入れ、オリンピックイヤーに訪れる外国人もより楽しめるような仕掛けが必要。	B
135	オリンピック開催期間中は東京に人が集まると思うので、どのようにして京都まで来てもらうかという情報発信の方法が大切だ。	B
136	京都と交流がある姉妹都市と連携して、2020年海外から京都を訪れてもらえるような情報発信を進めるべきではないか。	B
137	(6)広めるについては、日本国内はもちろんのこと、世界各地から集まってくるオリンピックに向けたプログラムということを踏まえ、世界に多く発信していくべきだ。	B
(7) 集う「文化芸術を、「知る・体験する・学ぶ・創る」など、様々な関わり方で京都に人が集う		
138	アーティスト・イン・レジデンスだけでなく、海外からの優秀な学者や研究者、技術者も芸術家と同じ屋根の下で生活できるような施設があればよい(そこに優秀な日本人も入居できるようにしてもよいかもしれない)。山間部など、過疎地にアーティストの移住を促し、地域振興と芸術活動の支援を合わせてできるようになることを期待する。	B
139	オリンピック・パラリンピック競技大会では障害者のスポーツも行われており、障害のある方の芸術活動に光を当てることも大切だ。	B
140	空き家の有効活用は、今後空き家が増加していく中で非常に大切な取組。空き家をマンションや駐車場にするのではなく、芸術家が利用することで京都らしいまちなみになることを期待している。	B
141	美術館やアート施設は、そもそも文化芸術に関心のある方しか出向かない。まちなかや駅構内などを利用して、関心のない方にも気に留めてもらえるような発信が必要ではないか。	B
142	学生ボランティアがもっと活躍できるような環境整備を進めてもらいたい。	B
143	京都にある空き家を活用して、長期滞在できるような仕組みを作り、大学間の交流ができるような催しを後押しできないか。	C
144	京都にはプロの芸術家だけではなく、学生からアマチュアで活動する人達も多数いるので、色々な人が一緒に京都で文化芸術を盛り上げていくようなものにしてもらいたい。	B
145	京都にはたくさんの芸術家や職人がおり、京都で活動したいと考えるアーティストも多いと思うので、豊富な人材を活かし、発表できる環境を整備することが必要だ。	B
146	(7) 集うは、機会創出の面から重要な取組だと思う。	B
2020年に向けてのスケジュール		
147	2020年に向けて、段階的に様々な事業が実施される予定であるが、それぞれの事業が文化芸術プログラムにおける取組ということが分かるような、一体感が持てるような工夫をしてはどうか。	B
148	今後の6年間で、様々なイベントがされる予定であるが、連続した文化芸術のイベントの実施による盛り上がりや2020年までに持続するよう、財源確保や人材育成に努める必要がある。2020年を目指す途中で疲弊することのないように。	B
149	2016年10月に京阪神及び東京で開催が予定されているスポーツ・文化版ダボス会議(仮称)開催支援についても、プログラムに盛り込んでもらいたい。	A
推進方法		
150	文化芸術分野は事業評価することが大変難しいので、事業評価だけにとらわれることなく、取組を進めていってほしい。	B
151	観光客を実際に受け入れる旅行業界、ホテル業界との連携が必要。	B
152	京都市域だけでなく、京都府域全体や関西全体で魅力を発信できるとよい。	B
153	近年、女性の活躍が一層注目されているが、事業のアイデア出しに協力してもらうなど、その力を活用する取組に期待する。	B

総論		
154	様々なことが盛りだくさんのプログラムになっていて分かりにくいので、発信の際には情報を小出しにするなど工夫が必要。また、推進事業も市民が気軽に参加できるような提案を期待する。	C
155	体系化、カテゴリー分けがあって判り易くはなっているが、思いや意識から遠い文章にならない様に心掛けてほしい。	C
156	内容が難しく見えてしまうので、一般市民にも関心が持てるような分かりやすい取組が必要だ。	C
157	様々なイベントやプログラムが「文化を求める人だけのものになっていないか」、意識のある人にだけ伝わる情報、思いを持った人だけが参加に来る企画でなく、広く一般的にも伝わるものになるよう見方を変えて再度検証してほしい。	C
158	京都には伝統文化・伝統芸能だけでなく、現代アートから舞台芸術・音楽まで幅広いジャンルの文化芸術があるせいか、プログラムの内容も盛りだくさんとなっている。どの事業から着手するのか優先順位を決めて、目標が達成できるように取り組んでいってもらいたい。	C
159	2020年までの6年間の計画としては総花的で漫然とした感が強い。市が何をするのか、市民は何をすれば良いか、また、どのプログラムをいつ実行するのか等、具体的なことがよく分からない。プログラム全体をもっと短期集中型にすべきではないか。	C
160	文化芸術プログラムの取組を一過性のものにするのではなく、資産形成することが大切。資産形成とは、人材育成、システムの成熟である。ストック形成する必要があることを考えるべき。ハード、ソフト、ヒューマンウェアの形成を行い、それをどのように戦略化するかが問われている。	B
161	京都のまち全体を舞台とした事業を展開し、2020年以降も継続していくような手法と成果の検討を進めてほしい。	B
162	オリンピックに向けてハード整備だけを進めるのではなく、今日の成熟社会にあった形で文化を見つめ直していってもらいたい。	B
163	2020年後を見据えた長期的な視点で、取組を進めていくことが大切。オリンピックを単なるイベントで終わらせてはいけない。	B
164	2020年を契機に世界中のアーティストが京都で出会い、そこから新たな価値観が生まれ、2020年以降も継続していくことを期待する。	B
165	イベントばかりやるような文化プログラムは駄目である。次の世代のために、新しい展望が生まれるようにしてほしい。	B
166	オリンピックだと言って文化イベントをするだけなら、やらなくてよい。日本の未来につながるものをつくっていくべき。未来の人々に、何が残せるかを考えるべき。	B
167	2020年までを目標とするのではなく、その後も大切ではないか。もっと長期のスパンで考えてもよいと思う。	B
168	東京オリンピックに向けての取組を一過性のものとして終わらせず、後世に継ぐことができるよう、未来につながる人の育成に力を入れてほしい。	B
169	2020年を中心として、その前後も京都で文化芸術活動が盛り上がるができるよう、続けられる仕組みづくりが重要である。決して一過性のものに終わらぬように取り組んでほしい。	B
170	2020年以降も引き続き取組を進めてほしい。	B
171	文化施策が一過性のものとならないよう、30年先、50年先を見据えた取組を継続していくべき。	B
172	京都は新しい文化芸術を打ち出していくことも得意なまちである。今後も、多文化、異文化の衝突を重ね、その時代に沿った新たな創造を生み出していけることを願う。	B
173	崩壊した古き良き日本の社会をコミュニティで文化を取り戻すきっかけにしてほしい。	B
174	近代化が進んできた中で、今日の日本人自身が日本の文化をきちんと理解しているか疑問。この機会に自国の文化をしっかりと見つめ直さなければならない。	B
175	2020年、世界から京都を訪れる方達をもてなすのは市民一人ひとり。東京オリンピックと京都が結び付いてこない人が多数だと思うので、今後市民に向けての発信が大切だ。	B
176	人材の育成や伝統文化を守る、それを広げるという取組は大変素晴らしく、京都の魅力を守るため是非取り組んでもらいたい。	B
177	「京都」ならでは、「京都」だからこそできるプログラムにしてほしい。	B
178	オリンピックに焦点を当てる事業はできるだけ絞った方がよい。	C

その他		
179	美術館や博物館の夜間開館を強く希望する。	C
180	日本はクールジャパンを打ち出しているが、外国人が日本文化を最初に学ぶのは、茶道・華道といったもので、それが集積しているのは京都だと思う。ウォームジャパン戦略を打ち出したらい。	B
181	市民一人ひとりが京都を訪れる方々を受け入れる体制を2020年に向けて今から築いていかなければならない。	B
182	観光施設の開館時間を早めてほしい。	C
183	外国人の観光客を対象としているので、短期間で着物、お茶などを一度に京都ならではの文化を満喫できるようなコースがあれば、観光客にも満足してもらえるのではないかな。	C
184	京都は文化芸術が充実しすぎていてどこを見てよいのか困る所があるので、短期間で触れられるような複数のコースをマップ化するなど検討してほしい。(半日で魅力紹介＋案内できるコース)	C
185	京都市内の御陵や偉人のお墓を紹介し、新たな観光スポットを増やしてほしい。	C
186	各国調査やアンケート調査を実施し、海外の人にとって京都の何が魅力かを調べてもらいたい。	C
187	財源を確保するためには募金活動も行っていく必要があるのではないかな。あわせて税制上の優遇措置も検討してもらいたい。	C
188	寺が多い京都で座禅を体験してもらおうプログラムがあってもよい。	C
189	京都のまちなかを歩いてもらえる仕組みが必要。	C
190	京都市内の小中学生は美術館や寺などの観光施設を無料にさせてほしい。そのために小学生に生徒証明書を交付してはどうか。	C
191	市バスの車内でバス停付近の観光地への案内を積極的に流してほしい。	C
192	バス車内に地図を配布できるように設置してほしい。	C
193	観光地にスタンプを設置してスタンプラリーを通年実施してほしい。	C
194	京都市が設置してる神社やお寺の木製の案内板や消防局の防火の木製の案内板の劣化が進んでいるので、全て金属製にしてほしい。	C
195	全てのバス停に付近の地図の案内板を設置してほしい。	C
196	市内各所に案内板を増やしてほしい。	C
197	道路の地名の案内板に英語を付けてほしい。	C
198	市内のコンビニ全ての入口付近に付近地図の案内板を設置してはどうか。	C
199	仁丹の町名案内板のような京都らしい町名案内板を新しく市内の全町内に設置してはどうか。	C
200	京都には独特の通り名や町名があるので、それを知り、残していくことが必要。市内の周辺地図の案内板に通り名だけでなく、通りの由来を記すとともに町名案内板を新設し、由来も記すといった取組を市内全域で行ってはどうか。	C
201	観光客のためにまちなかにあるトイレの整備を進めてほしい。	C
202	学校で和服を着る体験を導入してはどうか。	C
203	市役所や観光案内所などの公共施設の職員は着物や浴衣などの和服を制服にしてはどうか。	C
204	着物や浴衣で参加した人は入場無料にするなど、京都から和の文化を発信するために様々な工夫を。	C
205	修学旅行生がもっと増えるような取組を進めてほしい。	C
206	外国人を京都に受け入れるためホームステイをもっと広げてほしい。	C
207	文化の発信や国内外からの観光客を呼び込むのも大事だが、その前に、京都市民の安心安全な生活や大規模災害時の防災など、もっとやらねばならないことがあるのではないかな。	C